

科目名称：	現代美術論（ビジネス実務学科）		
担当者名：	堀 一浩		
区分	授業形態	単位数	
専門教育科目	講義	2	
授業の目的・テーマ			
<p>現在では単に視覚性や造形性、美的な感動だけでは美術を語ることは容易ではなく、作家・作品の背景となる政治・経済・科学など社会事象全般との関連を考えなければその本質は理解できなくなってしまった。そこで、伝統的な芸術概念のみを信じる多くの人々との間に深い溝を生じている。多様な20世紀以降の美術の流れを紹介する。</p>			
授業の達成目標・到達目標			
<p>この授業では重要な美術運動や作家を分析しながらいくつかのキーワードを手がかりに解説し、単なる美術的な知識にとどまることなく、社会や生活などに多様な価値観を意識できるようにする。</p>			

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP(2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	○
DP(4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)			80	20	100
ビジネスDP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
授業の理解	現代の社会と美術の状況を結びつけて理解し、独自の考えを持つ。	美術の歴史と現状を理解し、客観的な意見を持つ。	授業の内容を理解できている。	授業に集中せず、資料の内容を理解していない。
積極性	事前に入念にテーマについて学習し、質問を積極的にする。	事前に入念にテーマについて学習し、資料に要点や気づきの書きこみをする。	資料を確認しながら、要点の書き込みを行う。	授業に関心が薄く、集中していない。
考察	美術を取り巻く様々な問題を実社会や自身の生活とも関連づけて独自の意見をまとめられる。	テーマを明確にし、自己の視点で意見をまとめる。	テーマについて調べてまとめることができる。	既出の意見をまとめたものを単に写し、自己の視点がない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 お金と美術	次回のテーマ(お金と美術)について下調べをしておく。	30分
第2回 マルセル・デュシャン	次回のテーマ(マルセル・デュシャン)について下調べをしておく。	30分
第3回 言葉と美術	次回のテーマ(言葉と美術)について下調べをしておく。	30分
第4回 自然・環境と美術	次回のテーマ(自然・環境と美術)について下調べをしておく。	30分
第5回 コピーとオリジナルと美術	次回のテーマ(コピーとオリジナルと美術)について下調べをしておく。	30分
第6回 ルールと美術	次回のテーマ(ルールと美術)について下調べをしておく。	30分
第7回 アウトサイダーアート	次回のテーマ(アウトサイダーアート)について下調べをしておく。	30分
第8回 性と死と美術	次回のテーマ(性と死と美術)について下調べをしておく。	30分
第9回 テクノロジーと美術	次回のテーマ(テクノロジーと美術)について下調べをしておく。	30分
第10回 戦争と美術	次回のテーマ(戦争と美術)について下調べをしておく。	30分
第11回 視覚・色彩と美術	次回のテーマ(視覚・色彩と美術)について下調べをしておく。	30分
第12回 マンガと美術	次回のテーマ(マンガと美術)について下調べをしておく。	30分
第13回 アーティストとして生きること	レポート作成のための作家について調べておく。	30分
第14回 現在の美術1	美術館を見学しておく。	100分
第15回 現在の美術2/授業内でディスカッションをする。	授業で興味を持ったジャンルについて調べておく。	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、調べた内容を小レポートにまとめておくこと。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
レポートの提出を原則とし、レポートの評価80%、授業への積極性20%とする

課題に対するフィードバック

定期試験は、希望者にはコメントをつけて返却する。

教科書・参考書

(カラー版) 20世紀の美術 末永照和監修 美術出版社
教科書の該当ページを開きながら解説を行う。